

2017年度 第24号

年報

研究機構
オープンイノベーションセンター

○ オープンイノベーションセンター年間活動実績	
年間活動実績	1
○ 産学官連携推進部門の活動報告	
技術相談・外部資金受入	5～
企業・経済団体・官公庁・公的機関訪問件数	8
3DCAD&3Dプリンター無料研修	9～
○ 知的財産部門の活動報告	
発明・特許件数	11
○ 埼玉大学産学官連携協議会の活動報告	
研究会活動報告	12～
○ COICの運営と組織	
運営と組織	15～
体制図	18
歴代センター長一覧	19
○ ご案内	
技術相談について	20
共同研究について	21～
各種イベントでのセンターPR用ポスター	23
埼玉大学産学官連携協議会 紹介パンフレット	24

年間活動実績

月	日	曜日	時 間	場 所	内 容	主催/共催 /参加		担 当		実績等
4	11	火	16:00～17:00	大宮ソニックシティ	埼玉大学産学連携協議会第1回運営委員会	協	主	小林	山田	
	25	火	13:30～14:30	108研修室	第1回 研究機構「産学官連携部門」会議		主	綿貫	センター 全員	
	26	水	9:00～11:00	209技術相談室	第1回 知的財産評価委員会		主	松岡	北島、小 林、笠谷、 有馬	
5	30	火	13:30～14:30	108研修室	第2回 研究機構「産学官連携部門」会議		主	綿貫	センター 全員	
	30	火	15:00～17:00	大宮ソニックシティ	防災ビジネス研究会	研	主	笠谷	山田	
	31	水	9:00～11:00	209技術相談室	第2回 知的財産評価委員会		主	松岡	北島、小 林、笠谷、 有馬	
6	5	月	12:45～13:15	大宮ソニックシティ	埼玉大学産学官連携協議会 第2回運営委員会	協	主	小林	山田、日 下、平本	
	5	月	13:30～18:00	大宮ソニックシティ市民ホール	埼玉大学産学官連携協議会 第18回定期総会・交流会	協	主	小林	センター 全員	参加者計:161
	7	水	10:00～18:00	さいたまスーパーアリーナ	さいしんビジネスフェア2017		参	小林	大久保、 日下	名刺交換計：40
	20	火	14:00～15:30	新都心ビジネス交流プラザ	埼玉県産学連携支援ネットワーク会議（総会）		主	小林	大久保	
	27	火	13:30～14:30	108研修室	第3回 研究機構「産学官連携部門」会議		主	綿貫	センター 全員	
	28	水	9:00～11:00	209技術相談室	第3回 知的財産評価委員会		主	松岡	北島、小 林、笠谷、 有馬	
	28	水	13:00～17:00	108研修室	ものづくり支援業務（入門コース1回目）～30日		主	丹保		8名参加（市内6名、 市外2名）
	29	木	9:55～16:00	JST東京本部別館1Fホール	4 u 発 新技術説明会		共	大久保		3教員発表
29	木	13:15～16:50	大宮ソニックシティ市民ホール	埼玉県経営者協会との研究紹介フェア		共	松岡	センター 全員	12教員発表	

7	19	水	9:00～11:00	209技術相談室	第4回 知的財産評価委員会	主	松岡	北島、小林、笠谷、有馬	
	25	火	13:30～14:30	108研修室	第4回 研究機構「産学官連携部門」会議	主	綿貫	センター全員	
	26	水	13:00～17:00	108研修室	ものづくり支援業務（入門コース2回目）～28日	主	丹保		9名参加（市内6名、市外3名）
8	23	水	9:00～11:00	209技術相談室	第5回 知的財産評価委員会	主	松岡	北島、小林、笠谷、有馬	
	29	火	13:30～14:30	108研修室	第5回 研究機構「産学官連携部門」会議	主	綿貫	センター全員	
	31	木	10:00～17:00	東京ビッグサイト	イノベーションジャパン2017—大 学見本市—（～9/1金）	参	横田	笠谷、岩佐、大久保、北島、有馬	名刺交換計:328 面談数:10
9	7	木	13:00～17:00	108研修室	ものづくり支援業務（実用コースA1回目）～8日	主	丹保		8名参加（市内6名、市外2名）
	14	木	13:00～17:00	108研修室	ものづくり支援業務（実用コースB1回目）～15日	主	丹保		6名参加（市内5名、市外1名）
	14	木	13:30～17:30	信州大学	ミニかがやきプロジェクト	参	松岡	笠谷	4教員発表
	19	火	9:00～11:00	209技術相談室	第6回 知的財産評価委員会	主	松岡	北島、小林、笠谷、有馬	
9	26	火	9:55～16:00	JST東京本部別館1Fホール	4 u 発JST新技術説明会	共	大久保	松岡、岩佐、今	4教員発表
	26	火	13:30～14:30	108研修室	第6回 研究機構「産学官連携部門」会議	主	綿貫	センター全員	
	27	水	13:30～14:30	108研修室	SAITECオープンラボ	参	小林	今	センター紹介、研究成果発表

10	2	月	13:00～17:00	108研修室	ものづくり支援業務（応用コース1回目）～3日		主	丹保		6名参加（市内3名、市外3名）
	16	月	10:00～17:00	浦和ロイヤルパインズホテル	埼玉ビジネス交流会（主催：第一生命）		参	小林	今	名刺交換計:43
	19	木	13:00～17:00	108研修室	ものづくり支援業務（実用コースA2回目）～20日		主	丹保		3名参加（市内2名、市外1名）
	26	木	13:00～17:00	108研修室	ものづくり支援業務（実用コースB2回目）～27日		主	丹保		2名参加（市内1名、市外1名）
	31	火		108研修室	第5回 研究機構「産学官連携部門」会議		主	綿貫	センター 全員	
11	8	水	13:00～17:00	108研修室	ものづくり支援業務（入門コース3回目）～10日		主	丹保		14名参加（市内6名、市外8名）
	8	水	10:00～17:00	大宮ソニックシティ	BIZ SAITAMAさいたま市産業交流展（～9日）		参	笠谷	今	4教員発表
	14	火	13:30～18:00	シアター教室	第18回 埼玉大学産学交流会（テクノカフェ）	協	主	小林	山田、日下、平本	
	16	木	13:00～17:00	108研修室	ものづくり支援業務（入門コース追加1回目）～17日		主	丹保		2名参加（市内0名、市外2名）
	24	金			第68回 埼玉大学むつめ祭（～26日）					
	28	火		108研修室	第5回 研究機構「産学官連携部門」会議		主	綿貫	センター 全員	
	30	木	13:00～17:00	108研修室	ものづくり支援業務（実用コースA3回目）～12月1日		主	丹保		9名参加（市内3名、市外6名）

12	7	木	13:00~17:00	108研修室	ものづくり支援業務（実用コースB 3回目）～8日	主	丹保		4名参加（市内2名、 市外2名）
	11	月	13:00~17:00	108研修室	ものづくり支援業務（応用コース 2回目）～12日	主	丹保		4名参加（市内3名、 市外1名）
	19	火		108研修室	第5回 研究機構「産学官連携部門」 会議	主	綿貫	センター 全員	
1	23	火	13:00~17:00	108研修室	ものづくり支援業務（入門コース 追加2回目） 1日間	主	丹保		6名参加（市内0名、 市外6名）
	24	水	13:00~17:00	108研修室	ものづくり支援業務（入門コース 追加3回目） 1日間	主	丹保		9名参加（市内1名、 市外8名）
	24	水	10:00~18:00	さいたまスーパーアリーナ	彩の国ビジネスアリーナ2018（～ 25日）	参	松岡		2 教員発表、ビジ ネス交流会参加
1	25	木	13:00~17:00	108研修室	ものづくり支援業務（実用コースA 4回目）～26日	主	丹保		5名参加（市内1名、 市外4名）
	30	火		108研修室	第5回 研究機構「産学官連携部門」 会議	主	綿貫	センター 全員	
	1	木	13:00~17:00	108研修室	ものづくり支援業務（実用コースB 4回目）～2日	主	丹保		5名参加（市内1名、 市外4名）
2	5	月	13:00~17:00	108研修室	ものづくり支援業務（応用コース 3回目）～6日	主	丹保		5名参加（市内0名、 市外5名）
	15	木	13:00~17:00	108研修室	ものづくり支援業務（入門コース 追加4回目）～16日	主	丹保		6名参加（市内0名、 市外6名）
	27	火		108研修室	第5回 研究機構「産学官連携部門」 会議	主	綿貫	センター 全員	
3	1	木		大学会館	学内合同企業説明会（産学官連携協 議会会員企業対象）～2日、5～9日	協	主	小林	山田、日 下、平本

産学官連携推進部門の活動報告

●技術相談件数（分野別）

単位:件

年 度	生物	物理	化学	機能材料	数学	電気電子	情報通信	機械	環境	建設	経済	教育	その他	合計
平成29年度	7	2	15	39	0	19	31	32	2	2	3	5	7	164
平成28年度	4	3	13	13	0	17	19	40	9	5	3	8	6	140
平成27年度	11	1	12	10	0	15	6	29	3	1	2	5	19	114

●技術相談件数（月別）

単位:件

年 度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
平成29年度	40	7	15	16	8	19	21	11	11	7	6	3	164
平成28年度	24	5	18	4	15	19	10	7	9	12	12	5	140
平成27年度	12	14	19	6	5	13	13	12	6	6	3	5	114

●外部資金受入（大学総計）

単位:件、千円

年 度	民間等との共同研究		受託研究		奨学寄附金		合 計	
	件数	金額	件数	金額	件数	金額	件数	金額
平成29年度	151	229,547	36	150,309	184	315,246	371	695,102
平成28年度	134	212,097	51	186,689	184	313,909	369	712,695
平成27年度	128	112,414	57	300,062	153	224,603	338	637,079

直接的外部資金受入

●平成29年度JST地域産学バリュープログラム (採択されたシーズ 4件/20件申請)

研究課題	学部	研究者
高電圧対応EVヒューズの開発	大学院理工学研究科	山納康
極低振動環境を実現する除振ユニットの開発	大学院理工学研究科	水野毅
ノロウイルスを超高感度検出するキットの課題解決	大学院理工学研究科	松岡浩司
『夢』の菌・ウイルス可視化スプレーの開発に関する基盤研究 開発に関する基盤研究—バイオセンサ試薬の創製と紫外線照射装置の開発—	大学院理工学研究科	幡野健

●戦略的基盤技術高度化支援事業 (サポイン)

研究課題	学部	研究者
色のバラツキが少なく、視認性に優れ疲労軽減特性のある自動車内装照明用LEDの蛍光体層開発 (平成27年継続)	大学院理工学研究科	綿貫啓一
宇宙産業向けシームレス球形容器の技術開発 (平成28年継続)	大学院理工学研究科	荒居義雄
スモールモビリティ、電動アシスト自転車用非接触給電技術の開発 (平成28年継続)	大学院理工学研究科	金子裕良

●埼玉県産学連携研究開発プロジェクト (採択されたシーズ 1件/7件申請)

研究課題	学部	研究者
ドローン (UAV) を用いた低層大気観測用ロボットの開発 (平成28年継続)	大学院理工学研究科	王青躍
人の作業熟練過程に倣った高性能減菌環境下移動ロボットの開発 (平成28年継続)	大学院理工学研究科	綿貫啓一
完全無制御運転を可能とする交流磁気浮上式遠心血液ポンプの開発	大学院理工学研究科	水野毅

間接的外部資金受入

○埼玉県新技術・製品化開発費

研究課題	学部	研究者
簡易PSG検査用着衣型ウェアラブルシステムの開発	大学院理工学研究科	綿貫啓一
AIを活用した清掃ロボット遠隔監視・自動制御システムの開発	大学院理工学研究科	福田悠人

○さいたま市産業創造財団研究開発人材高度化タスクフォース事業

研究課題	学部	研究者
エマルジョン型粘着剤の高速塗工のための設計技術の開発	大学院理工学研究科	本間俊司

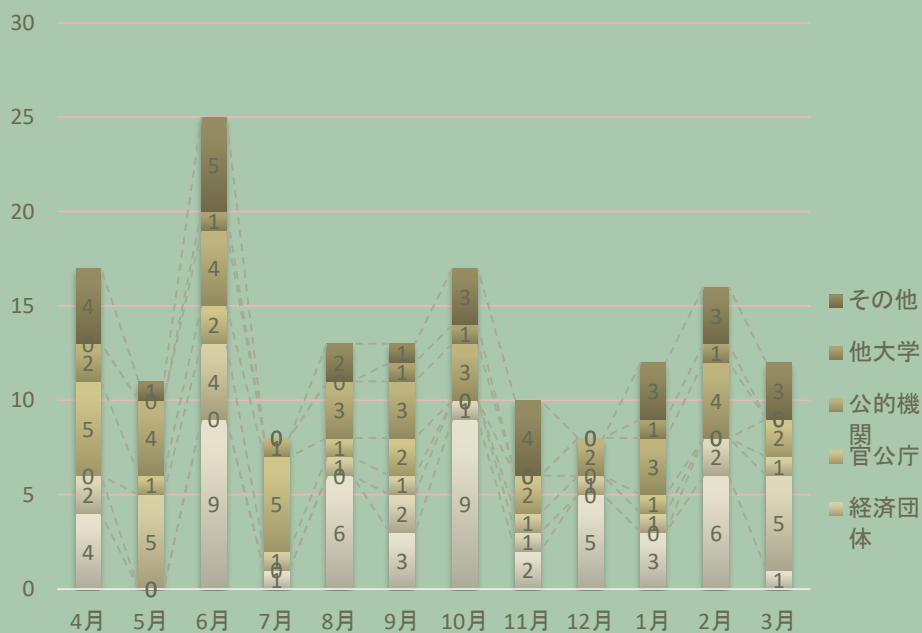
○さいたま市産業創造財団政策対応型調査研究・試作開発事業

研究課題	学部	研究者
干渉光学式形状認識技術の応用研究	大学院理工学研究科	塩田達俊

●企業・経済団体・官公庁・公的機関訪問件数（年間）

訪 問 先	件 数 ※
県 内 企 業	49
県 外 企 業	13
経 済 団 体	16
官 公 庁	21
公 的 機 関	29
他 大 学	5
そ の 他 ※	29

※ 件数は、訪問した延べ人数ではなく訪問件数でカウント。
 ※ 「その他」は各種イベント参加のための会場訪問が多く、主な訪問先は大宮ソニックシティ 10件、東京ビッグサイト5件、さいたまスーパーアリーナ3件、以下省略。



●3D-CAD & 3Dプリンター無料研修

本年度で4年目となる高度ものづくり人材育成支援事業として、さいたま市内企業の国際競争力高度化を図るため、さいたま市主催及びさいたま市産業創造財団の協力により実施した。企業の製品開発では3D-CADによるシミュレーション技術が導入され、3D-CAD及び3Dプリンターを利用することにより、開発、試作及び設計時間の短縮、機能や信頼性の確認の高度化及びコストを削減することが可能であり、さいたま市内企業の技術者が、これら技術を習得することを目的とした。

本研修では、3D-CADの操作研修にミッドレンジ3D-CADとして代表的なSolidWorksを、フリー3D-CADには多機能・高性能なFusion360を採用した。入門コースでは、予定の3回と追加コース4回、Fusion360によるモデル作成操作と3Dプリンターによる造形の研修を行った。次に、実用コースでは、電子機器筐体の設計と組込みと3Dデータ修正の研修を行い、AコースではFusion360を、BコースではSolidWorksを使用しA及びBコースを各4回の計8回開催した。最後の、応用コースでは、SolidWorksのFEM解析機能による機械部品の応力・振動解析の研修を3回行った。これら各コースは、2日間の日程で研修を実施し、追加コースを含めて計18回開催した。

本研修の受講者数は、平成28年度の延べ108名、実数で58名の受講に対して、本年度は、延べ121名、実数で77名が受講しました。表1及び表2に示すように、受講企業の業種及び受講者の業務分類は、機械製造業他広い業種となった。

表1のとおり、受講者は、製造業では機械製造、電気電子機器、化学薬品及び建設・建築関係企業、製造業以外では情報通信、CAD関係及び医療関係企業から受講され、幅広い参加となった。また、表2のとおり、開発・設計及び製造・技術を中心に、営業からデザイン関係まで幅広い職種からの参加となった。

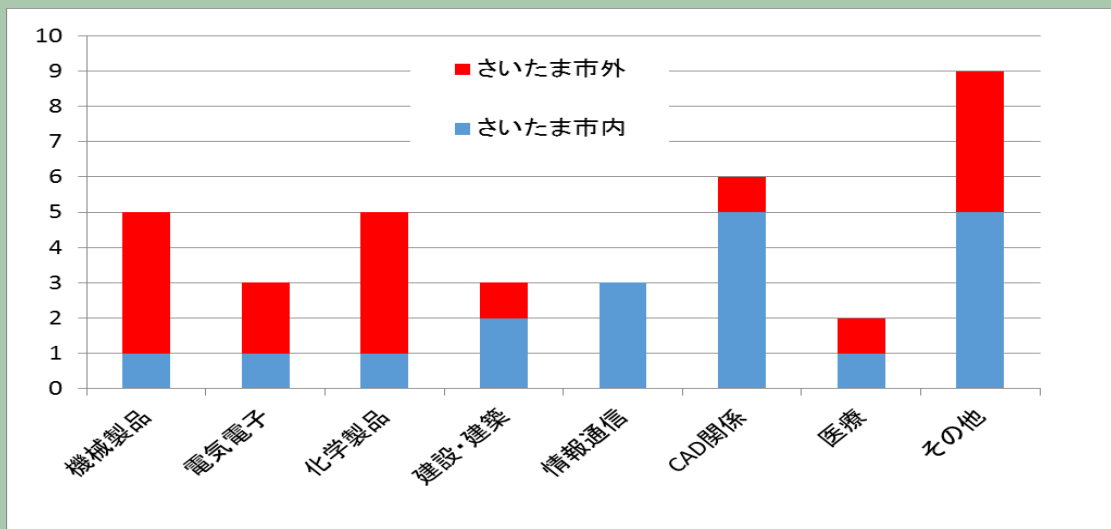


表1 H29年度 受講企業の業種

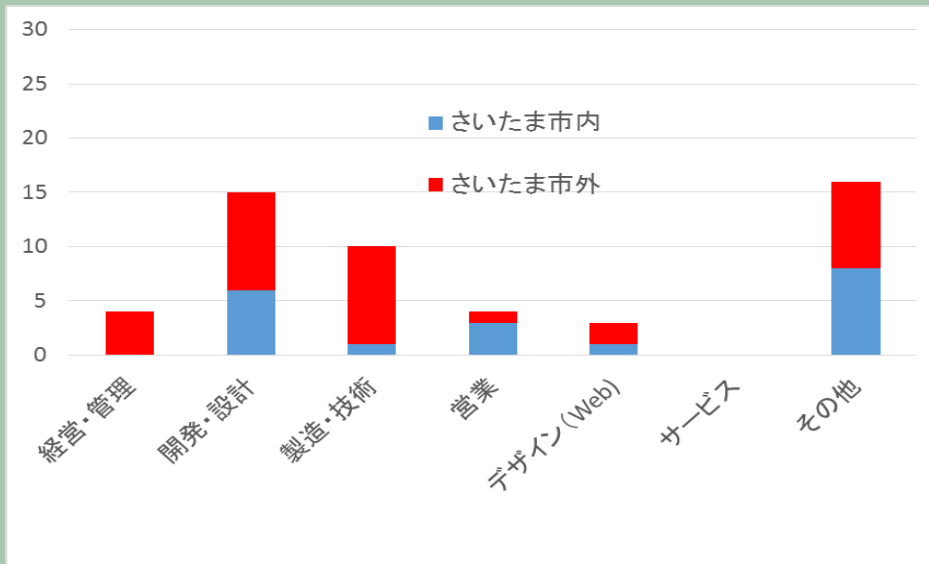


表2 H29年度 受講者の業務

3D-CADと併せ3Dプリンター研修では、埼玉県産業技術総合センター及び3Dプリンターの担当者による技術解説も行い、熱溶解積層法の3DプリンターUP Plus2を使用し受講者作成の3Dモデルの出力造形を行い、有意義であったと3Dプリンター購入企業もあった。

本研修のアンケートによれば、3D-CAD未経験者でも理解しやすい講習内容であったとの意見が多く寄せられ、また受講者の要望により復習や予習等の個別フォローアップを柔軟対応を行った。



研修風景



研修風景

知的財産部門の活動報告

●発明件数の実績

	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
発明件数（件）	68	58	40	53	44

●特許取得及び管理状況の実績（実用新案含む）

国内出願	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
出願件数（件）	72	54	38	58	30
登録件数（件）	31	46	30	41	19
消滅件数（件）	33	3	19	12	16
保有件数※（件）	162	202	214	243	246

※登録及び消滅件数は国内のみ、保有件数は、外国保有特許も含む。

●知的財産権ライセンス等収入実績

実施許諾	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
件数（件）	4	8	20	22	14
金額（千円）	1,803	1,377	1,343	1,966	1,851
譲渡	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
件数（件）	15	1	0	1	2
金額（千円）	7,687	205	0	0	1,080

※知的財産権とは、特許権、実用新案権、意匠権、商標権、著作権、その他（育成者権、回路配置利用権、ノウハウ等）とし、MTA（試料提供契約）を除く。

埼玉大学産学官連携協議会の活動報告

アグリビジネス研究会

代表：高木 優 環境科学研究センター長・教授

事務局：大久保俊彦 特命教授・産学官連携シニアコーディネーター

アグリビジネス研究会は、都心と良好な位置関係にある埼玉県のメリットを活かしたアグリビジネスについて考察し、実践的なビジネス展開ができるシステム構築を目指す開発研究を行うこと、また、埼玉県が展開する多様なリサイクルシステムに関するノウハウを活用し、バイオマスの有効利用を目的として活動を展開してきた。今年度が3年目の最終年度となり、以下の活動を行い総括を行った。

アブラヤシ残渣肥料化プロジェクトは、マレーシアの大学（MJIT）及び企業と具体的研究テーマ検討の体制ができ、高木・藤野両先生が継続研究していくこと、また会員企業の事業化に向けた取り組みの進展を図ることができた。

以下のとおり、研究会開催及び農場見学会実施を通して、アグリビジネス関連情報を会員相互に共有することができ、協議を通してビジネスイメージアップを図ることができ、一定の成果を上げることができた。

平成29年6月21日 研究会開催（年度計画協議）

平成29年10月16日 研究会開催（長谷川由貴准教授の研究内容紹介、アブラヤシプロジェクト協議）

平成29年11月21日 農場見学会開催（マルコーフーズ(株)荒川農場）

平成30年3月19日 公開セミナー開催（特別講演2テーマ（トヨタ自動車、かずさDNA研究所）、会員メンバー発表3件 参加者32名）



第1回研究会



公開セミナーの様子（新都心ビジネス交流プラザ）

防災ビジネス研究会

代表：藤池一誠 株式会社デサン 代表取締役社長

事務局：笠谷昌史 産学官連携シニアコーディネーター、山田涼子

防災ビジネス研究会は、産学官の持ちうる防災・減災情報を県内に広く周知するビジネススキーム構築に向けた研究を行うことを目的に活動を行ってきた。今年度3年目となる活動は、引き続き勉強会、見学会を開催し、3つの分科会活動により個別の防災関連テーマの具体化を進めることを主眼に、以下のとおり活動を行った。

平成29年5月30日 研究会開催（活動スケジュール確認、分科会テーマ協議等）

平成29年7月21日 3分科会（防災教育、訪日外国人向け、プラットフォーム）のキックオフミーティング開催

平成29年9月8日 研究会開催（各分科会活動報告、協議）

平成30年3月14日 研究会開催（分科会活動報告、会計報告、今後の活動方針等）

分科会では、防災教育5回、訪日外国人向け8回、プラットフォーム5回の会合を重ね、平成29年11月25日大学学園祭「むつめ祭」への防災教育ブース出展、平成30年2月1日～2日川崎国際環境技術展出展、平成30年2月9日訪日外国人向け避難誘導システムを開発し、大宮盆栽美術館システム検証実施（さいたま市イノベーション技術創出支援補助金を活用）など、ビジネス化に向け幅広いコンテンツ作成を行った。また、防災情報に一元アクセス可能なホームページを構築し、各会員の持つ防災・減災関連情報も反映可能となる仕組みを構築することができた。



研究会の様様



むつめ祭出展



外国人向け防災情報システム概要

次世代自動車研究会

代表：金子裕良 理工学研究科・教授

事務局：笠谷昌史 産学官連携シニアコーディネーター、山田涼子

次世代自動車研究会は、旧埼玉次世代自動車環境関連技術イノベーション創出センター（旧NeCST）の活動を継承し、自動車関連技術の開発推進・普及および情報発信を目的に研究会活動を進めてきた。

平成29年11月29日に「インテリジェントモビリティの明日は」をテーマに研究会を開催し、PHVの開発状況や自動運転のための通信システムの現状、EVワイヤレス充電実用化の国内外動向など、次世代自動車開発につながる最新動向の講演を行い、意見交換を行った。引き続き会員相互の連携を深め、自動車関連技術の向上、研究推進に努め、会員相互の情報交換、連携を進めることができた。



研究会の様様

COICの運営と組織

●運営と組織

【名称】

埼玉大学研究機構オープンイノベーションセンター
(Comprehensive Open Innovation Center)

【所在地】

〒338-8570 埼玉県さいたま市桜区下大久保255
TEL:048-858-9354 (直通) FAX:048-858-9419
E-mail:coic-jimu@ml.saitama-u.ac.jp
HP:http://www.saitama-u.ac.jp/coic/

【設立】

平成20年9月1日

【目的、業務】

国立大学法人埼玉大学研究機構オープンイノベーションセンター規程（抜粋）

（目的）

第2条 センターは、企業等の法人、地方公共団体等公的機関、他大学など（以下外部機関等という。）との共同研究及び研究交流を推進するとともに、本学における知的財産の創出、取得及び管理並びに技術移転の促進を図り、地域の企業等における技術革新、生産革新、経営革新、事業革新、情報革新、組織改革等のオープンイノベーションに対して中核機関として貢献することにより、本学の教育研究の進展に寄与するとともに地域社会の産業、文化、福祉及び教育の向上に資することを目的とする。

（部門）

第3条 センターの業務を実施するために、次の部門を置く。

- (1) 産学官連携推進部門
- (2) 知的財産部門

（業務）

第4条 センターにおいては、次に掲げる業務を行う。

- (1) 産学官連携戦略の企画及び推進
- (2) 外部機関等との連携の推進
- (3) 外部機関等との共同研究及びプロジェクトの推進
- (4) オープンイノベーションの醸成
- (5) 知的財産の管理及び創出・取得の推進
- (6) 技術移転の推進
- (7) ベンチャー起業に関する啓発・教育等による本学発ベンチャー企業への支援
- (8) その他センターの目的を達成するために必要な業務

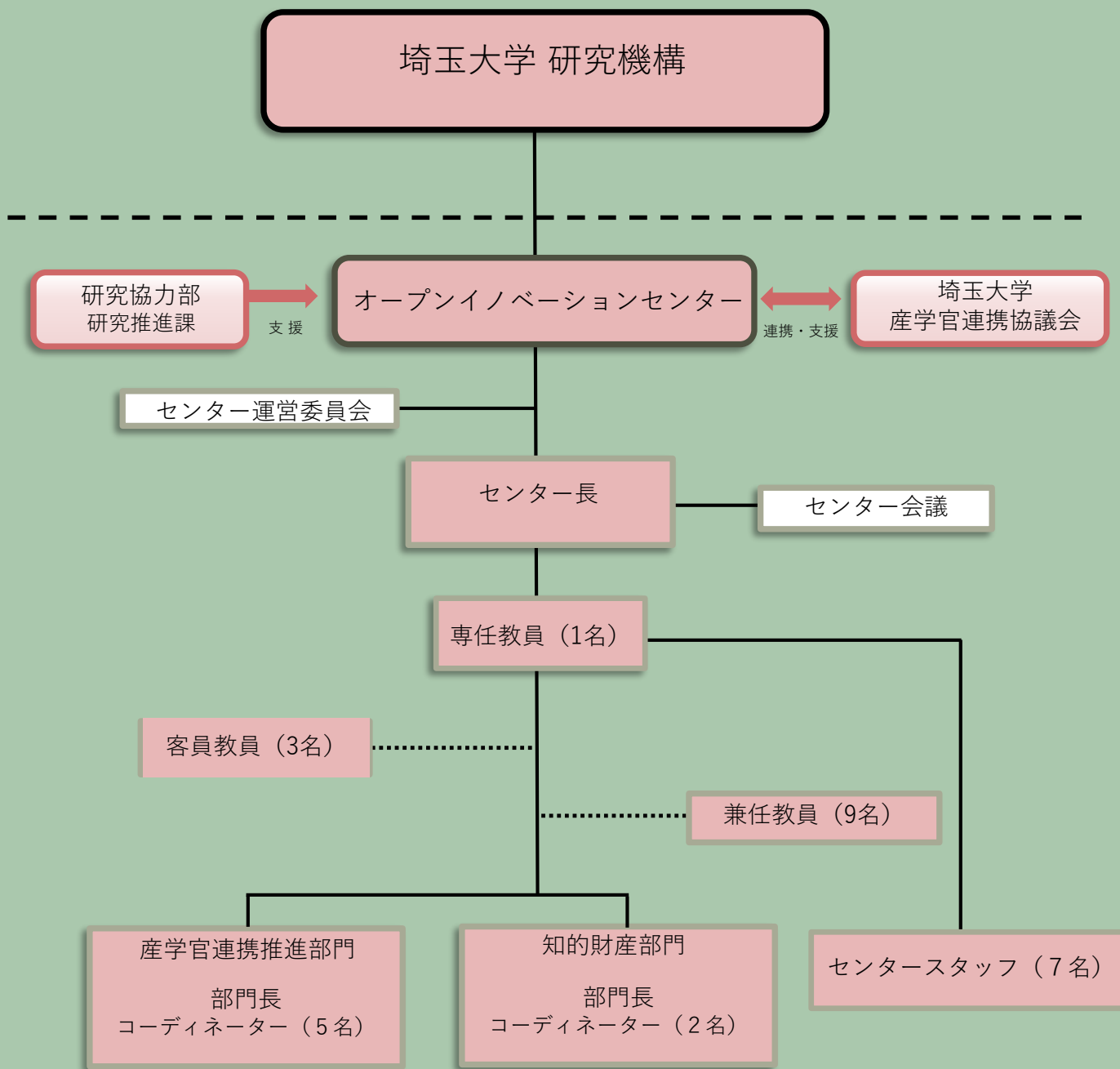
【埼玉大学の主たる研究分野等】

①企業内教育 ②経営 ③都市工学 ④環境 ⑤建設・土木 ⑥地震・地球科学 ⑦分析・評価・測定
⑧生体・化学 ⑨脳 ⑩素材・機能デバイス ⑪加工・生産技術 ⑫熱・流体・振動 ⑬メカトロニクス・計測・制御・ロボット ⑭コンピュータ応用・知識情報 ⑮電気・電子・部品・装置 等

職 名	スタッフ	主要業務等
センター長／ 知的財産部門長	松岡 浩司（教授）	統括、管理、監督、企画、運営、 計画推進、実施、知的財産管理 運営など
副センター長／ 産学官連携推進部門長	小林 裕一（教授）	統括、管理、企画、運営、計画 推進、実施、地域連携など
客員教授	川鍋 宏（平成29年6月1日～）	技術相談、研究支援、知的財産 支援、技術移転支援など
	織田 秀明（平成29年6月1日～）	
	中村 雅範	
兼任教員	鎌田 憲彦（教授）	産学官連携推進、センターの オープンイノベーション醸成、 運営助言など
	白井 肇（教授）	
	久野 義徳（教授）	
	金子 裕良（教授）	
	長谷川 孝明（教授）	
	久保田 尚（教授）	
	辻 俊明（准教授）	
	石丸 雄大（准教授）	
小林 貴訓（准教授）		
知的財産シニアコディ ネーター	北島 恒之（特命教授）	特許等知的財産創出、知的財産 申請・出願、知的財産管理、特 許紹介、技術移転、知的財産管 理データベース管理など
	有馬 百子	

職 名	スタッフ	主な具体的業務等
産学官連携シニアコーディネーター	大久保 俊彦 (特命教授)	技術指導、技術相談、共同研究・受託研究のコーディネート業務、研修、イベント出展、地方自治体との連携、研究会支援、地域企業連携、広域企業連携、産学連携イベントの企画・運営、イノベーション土壤の開拓、地域大学間連携、首都圏北部4大学連合(4u)活動協力、埼玉大学産学官連携協議会事業支援、オープンイノベーション醸成、3D CAD～3Dプリンター基礎研修業務運営など
	笠谷 昌史	
	丹保 仁志	
	岩佐 徳昭	
	横田 一郎	
事務補佐員	日下 明美	先端産業創造プロジェクト関連事務、3D CAD～3Dプリンター基礎研修関連管理事務、出納業務、勤務管理、備品管理、イベント出展補助、刊行物作成業務、オープンイノベーションセンター研究棟施設の管理、特許管理事務、ホームページ管理、受付、郵便物管理、埼玉大学産学官連携協議会事業支援など
	今 真紀	
	藏田 礼絵	
	荒井 達男	
	山田 涼子	
	平本 三菜子	
	長舟 葉子	

●体制図



●歴代センター長一覧

		氏 名	期 間
初代	一國 雅巳	教授	平成6年6月24日～平成8年3月31日
2代	河西 敏雄	教授	平成8年4月1日～平成10年3月31日
3代	山田 興治	教授	平成10年4月1日～平成12年3月31日
4代	坂本 和彦	教授	平成12年4月1日～平成14年6月9日
5代	睦好 宏史	教授	平成14年6月10日～平成16年3月31日
6代	加藤 寛	教授	平成16年4月 1 日～平成18年3月31日
7代	高田 進	教授	平成18年4月1日～平成20年2月27日
8代	中山 重蔵	理事	平成20年2月28日～平成20年3月31日
9代	太田 公廣	教授	平成20年4月1日～平成22年3月31日
10代	川橋 正昭	理事・副学長	平成22年4月1日～平成24年3月31日
11代	大澤 清一	教授	平成24年4月1日～平成26年3月31日
12代	綿貫 啓一	教授	平成26年4月1日～平成28年3月31日
13代	松岡 浩司	教授	平成28年4月1日～

ご案内

●技術相談について

本学では、企業の抱える技術的課題に対するご相談（技術相談）を随時受け付けています。いつでもお気軽にオープンイノベーションセンターまでご連絡ください。

TEL : 048-858-3849
E-mail : sangaku@ml.saitama-u.ac.jp

<技術相談のメリット>

企業

- ・共同研究に比べ手軽に利用できる。
- ・短期移管に有益なアドバイスが得られる。

大学

- ・実用性のある研究ができる。
- ・自分の専門を生かせる。
- ・企業のニーズや最近の動向がわかる。

研究・技術相談申込書

Email : ocic-sangaku@ml.saitama-u.ac.jp
FAX : 048-858-9419
埼玉大学 研究機構 オープンイノベーションセンター 行

申込者情報		年	月	日
会社名				
科属・ 役職名			ご担当者	
Email				
所在地				
電話			FAX	
従業員数			歳本数	
URL				

相談内容	
相談分野	<input type="checkbox"/> 生物 <input type="checkbox"/> 物理 <input type="checkbox"/> 化学 <input type="checkbox"/> 金属材料 <input type="checkbox"/> 数学 <input type="checkbox"/> 電気電子 <input type="checkbox"/> 情報通信 <input type="checkbox"/> 機械 <input type="checkbox"/> 環境 <input type="checkbox"/> 建築 <input type="checkbox"/> 経営 <input type="checkbox"/> 教育 <input type="checkbox"/> その他
希望教員	ご希望の教員がおりましたらご記入ください
きっかけ	<input type="checkbox"/> ホームページ <input type="checkbox"/> シーズ集「埼玉大学 研究シーズ集2018-19」 <input type="checkbox"/> 他機関等からのご紹介 <input type="checkbox"/> イベント <input type="checkbox"/> その他
相談内容	会社移管、相談に至る背景、問題点などについて具体的に記入ください
希望すること	アドバイス希望が内閣研究までを希望されるのかなどご記入ください

「埼玉大学研研究シーズ集 2018-19」等で研究内容をお調べいただくことも可能です。「埼玉大学研研究シーズ集 2018-19」をご希望の場合はお申しつけください。

測定・分析は、科学技術分析支援センターで有償で対応可能です。

学内で対応可能な教員が不在の場合には首都圏北部4大学連合（4u）等のネットワークを通じて他大学の教員を紹介することも可能です。

オープンイノベーションセンターでは、企業経験のあるコーディネーター等が対応しています。声をかけていただくことで、産学官連携のきっかけとなり地域社会の発展にお役に立てることを願っています。

●共同研究について

共同研究は、民間機関等の研究者と大学の教職員とが、契約に基づき、対等の立場で共通の課題について研究に取り組み、優れた研究成果が生まれることを促進する制度です。

研究形態

(1) 埼玉大学における共同研究

民間等から研究者及び研究経費等を受け入れ、本学の教職員と民間機関等の研究者が、共通の課題について、共同して行う研究です。

(2) 埼玉大学及び民間機関等における共同研究

民間等から研究者及び研究経費等、又は研究経費等を受け入れ、大学及び民間機関等が、共通の課題について分担して行う研究です。

(3) 民間等共同研究員

民間機関等において、現に研究業務に従事しており、共同研究のために在職のまま大学に派遣される方です。

研究経費

(1) 直接経費

共同研究遂行のために、特に必要となる謝金・旅費・研究支援者の人件費、消耗品費、光熱水量等の直接的な経費です。

(2) 民間等共同研究員の方の研究料

民間等共同研究員の方を大学に受け入れることにより必要となる経費です。
(1人あたり年額420,000円)

(3) 間接経費

共同研究遂行のために必要となる直接経費以外の経費で、原則直接経費の10%を負担していただきます。

設備等

(1) 帰属

- ① 負担いただいた共同研究に要する経費等により、大学が新たに取得した設備等は、大学の所有に属します。
- ② 民間機関等における共同研究に要する経費により、民間機関等が新たに取得した設備等は、民間機関等の所有に属します。

(2) 設備等の利用

研究の遂行上必要な場合は、大学が民間機関等の所有する設備等を受け入れ、共同で使用することができます。なお、この場合の搬入搬出に係る経費は、原則として民間機関等のご負担となります。

研究期間

- (1) 研究期間は特に制限はなく、複数年締結することもできます。
- (2) 共同研究が複数年にまたがる場合は、具体的な年次計画を策定し、十分な打合せを行ってください。

手続

- (1) 申込
本学の研究代表者が所属する組織の長（学部長等）に「別紙様式：共同研究申込書」等を提出してください。
- (2) 受入の決定
申込を受けた組織（学部等）の審議機関において、共同研究の実施に関する必要な事項について審議を行い、受入を決定します。
- (3) 共同研究契約
共同研究契約は、組織（学部等）を統括する学長と民間機関等の代表者等との間で締結します。

公表と特許等

- (1) 公表
共同研究における研究成果は、原則公表としていますが、公表の時期・方法については、特許権等の取得の妨げにならない範囲において契約書で定めることとなります。
- (2) 知的財産権の取扱い
知的財産権については、原則共有とし、本学と共同出願することとなります。この場合、持分は本学と協議の上、決定することとなります。
また、その共有知的財産権は、企業等又は企業等の指定する者に限り、出願した時から一定期間（契約時に設定）を超えない範囲内において独占的に実施することができます。

産学連携の推進により大学の研究成果を社会に還元する

埼玉大学オープンイノベーションセンター

技術動向について
教えてほしい

△△教授に相談したい

経営についての
助言がほしい

大学の特許を
使用したい

開発するための
アドバイスがほしい

〇〇技術開発の
共同研究をしたい

公的資金に
申請したい

大学発の新技术を
導入したい

お気軽にご相談ください！私たちがお手伝いします。

まずはコーディネーターにご連絡ください。（無料）
ふさわしい研究者をご紹介できるよう親身になってご相談に応じます。
開放特許をWEBで公開しています。
技術移転についてもご相談ください。



お気軽に
ご相談
ください。

対応可能学科:

工 学 部 (機械工学・システムデザイン学科、電気電子理工学科、情報工学科、
応用化学科、環境社会デザイン学科) / 理 学 部 (数学科、物理学科、基礎化学科、分子生物学
科、生体制御学科) / 教 養 学 部 / 経 済 学 部 / 教 育 学 部

オープンイノベーションセンターは

- 産学官連携推進部門 及び
 - 知的財産部門 の2部門からなります。
- 具体的な活動としては、本学研究シーズの紹介、技術相談、共同研究の実施支援、知的財産の紹介・活用、外部機関との連携等を行っております。

技術相談から共同研究等への流れ

研究・技術相談申込



オープンイノベーションセンター
産学官連携推進部門

☎ 048-858-3849 ☎ 048-858-9419
✉ coic-sangaku@ml.saitama-u.ac.jp

↓
教員との技術相談

共同研究

受託研究

奨学寄附金

WEBサイト

http://www.saitama-u.ac.jp/coalition/coic/coic_about/

埼玉大学産学官連携協議会

埼玉大学産学官連携協議会は、平成12年に埼玉県内の経済団体*と埼玉大学が設立発起人となり、協議会会員企業等と埼玉大学の研究とを有機的に結びつけ、地域産業の一層の発展を図ることを目的に設立された任意団体です。

本協議会では、協議会会員企業等の経営者および技術者と埼玉大学の研究者との交流の場を提供する産学交流事業、埼玉大学からの各種情報発信、また共同研究等への発展が期待される課題解決に向けた研究会活動などを行っています。

*埼玉県経営者協会、埼玉経済同友会、埼玉県商工会議所連合会、埼玉県商工会連合会、埼玉県中小企業団体中央会、埼玉県中小企業振興公社（現埼玉産業振興公社） 法人格名略

会員のメリット



? 本協議会の研究会に参加できます！

- ①防災ビジネス研究会 ②次世代自動車研究会
- ③アブラヤシバイオマス利活用研究会 ④AI時代の画像処理技術研究会
- ⑤創エネ・蓄エネ技術研究会 ⑥AI活用研究会



? 産学交流会（テクノカフェ等）に参加できます！

? 大学・企業等の最先端の研究成果や技術紹介と、大学と企業等のマッチングをおこなうオープンイノベーションの場に参加できます。



? 埼玉大学の学生採用のチャンスがあります！

? 会員企業が埼玉大学の学生・留学生に対して魅力発信する機会（企業説明会）に参加できます。<年1回>



? 埼玉大学科学分析支援センターが活用できます！

? 大型分析機器を多数保有する科学分析支援センターでの依頼分析を協議会会員料金（規定の1/2）でご利用いただけます。



? 企業活動に役立つ最新情報をお届けします！

? ニュースレター（年2回発行）とインフォメーションメール配信により研究シーズや会員企業紹介・最新のイベント情報などをお届けします。

入会のご案内

会員

1. 正会員は、本会の事業に賛同する団体または個人とします。（企業規模、業種にかかわらず入会することができます）
2. 公的な団体及び地方自治体等は、賛助会員として入会することができます。

年会費

1. 正会員：103万円を10以上 / 2. 賛助会員：無料

お申込み方法

埼玉大学産学官連携協議会の趣旨に賛同され、入会をご希望の方は、入会申込書に必要事項をご記入の上、事務局あてにFAXまたは郵送してください。担当よりあらためて連絡いたします。

? 申込書は裏面です

■お問合せ

埼玉大学産学官連携協議会事務局

〒338-8570 埼玉県さいたま市桜区下大久保255（オープンイノベーションセンター内）

電話：(048)714-2001 Fax：(048)858-9419 E-mail：coic-jimu@ml.saitama-u.ac.jp

URL：http://www.saitama-u.ac.jp/coalition/kyougi/kyougi_about/